



日本全国  
能楽  
キャラバン

# 初春 広島能楽特別公演



能養老  
望月  
喜多流 観世流

水波文伝

日本全国 能楽キャラバン! in 広島

令和4年 1月18日(火) 16:30 開場  
17:00 開演

JMSアステールプラザ能舞台(中ホール)

料金 全席指定(税込)

S席 ¥8,000 / A席 ¥7,000 / B席 ¥6,000 / C席(2階席) ¥5,000

前売開始 令和3年12月1日(水)

- ・公演に関するお問合せ：公益財団法人十四世六平太記念財団 Tel. 03-3491-8813 (10:00～18:00 休館日あり)
- ・チケットに関するお問合せ：中国新聞企画サービス Tel. 082-236-2244 (平日9:30～17:30)
- ・公演詳細：日本全国 能楽キャラバン! 特設サイト▶▶ <https://www.nohgaku.or.jp/caravan2021>

主催：公益社団法人能楽協会・公益財団法人十四世六平太記念財団・中国新聞社  
協力：広島喜多会



文化庁 大規模かつ質の高い文化芸術活動を核としたアートキャラバン事業

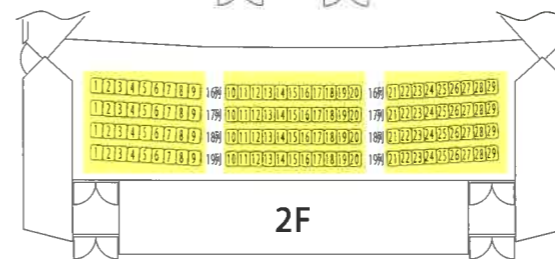
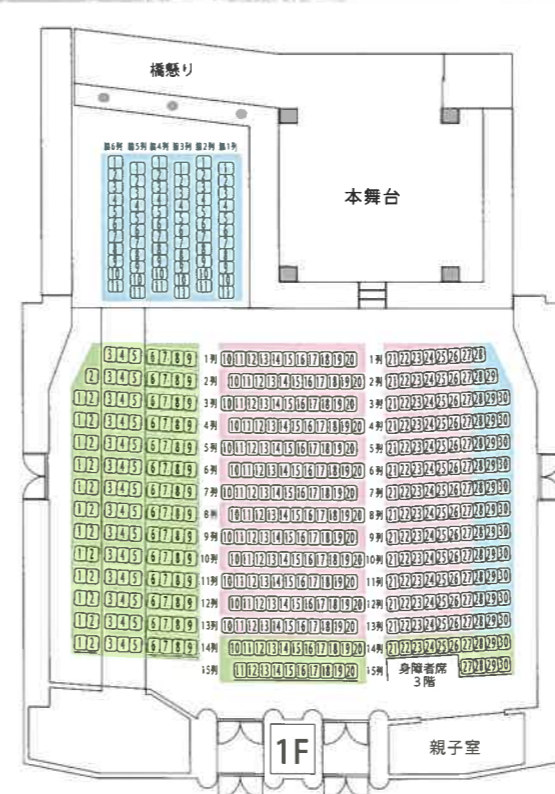
## チケット予約購入のご案内

- 電話予約・店頭販売
  - ・中国新聞読者広報部  
Tel. 082-236-2455 (平日9:30～18:00)
- 店頭販売
  - ・中国新聞販売所(取り寄せ)
  - ・セブン-イレブン
  - ・ローソン(Lコード:62466)
  - ・エディオン広島本店プレイガイド
- インターネット
  - ・セブン-イレブン  
<http://7ticket.jp/s/092393>
  - ・ローソン(Lコード:62466)  
<https://l-tike.com/contact/>

※お受取り・お支払い方法によって別途手数料がかかります。  
※ご予約、ご購入いただいたチケットのキャンセル、変更はできません。

## 観客席御案内

S席 8,000円    A席 7,000円  
B席 6,000円    C席(2階席) 5,000円



## 会場案内図



JMSアステールプラザ能舞台(中ホール)

〒730-0812 広島市中区加古町 4-17

Tel: 082-244-8000

ホームページ <http://h-culture.jp/>



## ●JR広島駅からの交通手段

- ・市内電車利用の場合 広島港行(紙屋町経由)→市役所前下車(600m)  
江波行→舟入町下車(400m)
- ・バス利用の場合 広島バス 24号路線  
吉島営業所行または吉島病院行→加古町下車(200m)
- ・タクシー利用の場合 約15分

## ご注意

- ・開演中の途中入場はお断りいたします。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。
- ・やむを得ない事情により出演者が変更になる場合がございます。
- ・許可なき写真・ビデオ撮影、及び録音はお断りいたします。
- ・客席での携帯電話やスマートフォンなど音や光の出る電子機器のご利用はお断りいたします。
- ・当面のあいだ水分補給を除き、飲食はご遠慮くださいますようお願いいたします。
- ・JMSアステールプラザは全館禁煙です。
- ・お席を離れる場合は貴重品、お手回りにご注意ください。
- ・盗難・紛失についての責任は負いかねます。
- ・係員の指示に従っていただけない際には退場していただく場合がございます。

本公演は、政府、公益社団法人全国公立文化施設協会などが定めるガイドライン、また広島市主催のイベント等の開催に関する基本方針を踏まえ対策を施しております。  
ご自身の身近に新型コロナウイルスに感染した方、またはその可能性がある方がいらっしゃるお客様のご入場はお断りいたします。  
ご来場の際は、マスクの着用をお願いします。  
会場入り口で手指の消毒、検温を実施させていただきます。  
体温が37.5℃以上の方、あるいは体調の悪い方のご入場はお断りさせていただきますことがございます。



# 日本全国 能楽キャラバン! in 広島 初春 広島能楽特別公演

令和四年 一月十八日(火)  
開場 十六時三十分 開演 十七時

## 能 (観世流)

## 解説

### 能「養老」(ようろう)

美濃の国(岐阜県)本巣郡にある養老の滝近くに霊泉が湧き出たというので帝の命を受けた勅使がそれを確かめに遣わされます。一行が養老の滝のほとりに着くと老人と若者の樵人が来かかり問われるままに二人は滝の名のいわれを語ります。ある日若者が薪採りの帰り道に滝近くの泉を見つけてその水を飲んだところ、さながら仙家の薬水かと思われほどに爽やかだったことに感激し、水を汲んで持ち帰り父母に飲ませたところ二人は見違えるように若々しく元氣になったことからこの泉の湧く滝が養老の滝と名付けられたとのこと。そして老人と若者は勅使を泉に案内し薬の水の徳を讃えて帝に捧げようと水を汲みます。勅使は薬の水を携えて帝に奏聞しようと都に向かいかかると不思議なことに天から光がさし音楽とともに花が降ってきて辺りは只ならぬ様子となります。やがて養老の山神が現れると平和な御代を祝福して颯爽と舞を舞って神の国に帰っていきます。今回は「水波之伝(すいはのでん)」という小書(特別演出)付の上演です。この小書が付くと通常では出ない後ツレ(楊柳観音)が登場し天女ノ舞を舞った後に後シテ(山神)が神舞を舞う展開となります。神と仏は、水と波のように本来は一体のものであるという神仏観を表した演出です。

### 狂言「仏師」(ぶっし)

田舎者が自宅に持仏堂を建立したのでそこに納める仏像を買いに都にやってきます。広い都に迷っている田舎者を見つけたすっぱ(騙り者)が親切めかして声をかけ、田舎者が仏像を求めていることを知ると自分は仏師だと嘘をつき、これから仏像を作って明日渡そうと約束します。翌日すっぱは自ら仏像になりすまして田舎者を持っていくと訪ねて来た田舎者は出来上がった仏像の印相(仏像の印を結んだ形)がどうも気に入りません。手直ししてもらおうと仏師を呼ぶとすっぱは慌てて現れます。何度も印相を手直しさせるたびにすっぱは仏師と仏像に早変わりを繰り返した末、とうとう最後はなりすましを見破られてしまいます。

### 能「望月」(もちづき)

信濃の国(長野県)の住人で安田の荘司友春の家臣、小沢の刑部友房は、所用があつて都にいる間に主人の友春が望月秋長と口論の末殺害されたことを聞きます。直ちに帰国の途についたものの、自らの命も狙われていることを耳にし帰国も出来ず、近江国(滋賀県)の守山の宿で甲屋という宿を設けて暮らしています。そこに夫が討たれた後、寄るべもなく故郷を出た友春の一子花若と友春の妻が守山の宿にたどりつき甲屋に泊まることとなります。友房は一目見て主君、友春の妻と花若と気づき、自ら名乗って再会を喜びます。一方、望月秋長は友春を殺した罪で長年都に留め置かれていました。が晴れて自由の身となり、本国信濃へと向かいます。運命の悪戯か、秋長は花若達と同日に甲屋に泊まり合わせます。そこで友房は今宵こそは仇を討たねばならぬと心に定め、なにくわぬ顔で望月を歓待します。そして花若の母を首御前に仕立てて花若とともに座敷に出し、母に曲舞を謡わせ、花若に八撥を打たせ、自らも獅子舞を舞います。そして望月が居眠った隙を狙って友春と花若は積年の恨みを晴らし本望を成し遂げます。敵討ちの手段として芸尽くしを見せる能で、クセを地謡、鞆鼓を子方、獅子をシテと三人三様の芸を演ずるのが趣向。特に獅子舞のあることで重い習い物とされています。

## 養

シテツレ・男 吉田篤史  
シテツレ・天女 林宗一郎  
後シテ・山神 井上裕久  
前シテ・老翁

## 老

ワキ・勅使 森 常好  
ワキツレ・従者 館田善博  
ワキツレ・従者 梅村昌功

大鼓 白坂保行 太鼓 井上敬介  
小鼓 横山幸彦 笛 左鴻泰弘

後見 大江又三郎 青木道喜  
杉浦豊彦

地謡 樹下千慧 浦田保浩  
大江泰正 津田和忠  
橋本光史 上田貴弘  
吉浪壽晃 上田拓司

休憩(十分)

## 狂言(和泉流)

## 仏師

シテ・すっぱ 野村万緑 アド 田舎の者 吉住 講  
後見 上杉啓太

休憩(二十分)

## 能(喜多流)

## 望

シテツレ・安田友春の妻 佐々木多門  
子方・花若 大島伊織  
シテ・小沢友房 粟谷明生

大鼓 白坂保行 太鼓 吉谷 潔  
小鼓 横山幸彦 笛 左鴻泰弘

アイ・望月の従者 野村万緑

後見 中村邦生 狩野了一  
高林呻二

地謡 友枝真也 粟谷充雄  
金子敬一郎 大村 定  
内田成信 出雲康雅  
大島輝久 長島 茂

終了予定時刻 二十時四十分頃